

履 修 要 項

国 文 科
英 文 科
放 射 線 科

昭 和 59 年 度

駒 澤 短 期 大 学

学 年 暦

前 期

4月8日(日)	入学式(学部・短大) 积尊降誕会
9日(月)	} 新入生オリエンテーション
12日(木)	
12日(木)	
13日(金)	} 在校生成績発表(学部・短大)
14日(土)	
12日(木)	} 授業開始
17日(火)	
20日(金)	} 在校生成績質疑応答
21日(土)	
23日(月)	} 1年次生単位履修届受付
28日(土)	
29日(日)	} 2・3・4年次生単位履修届受付 (学部により受付日が異なる)
5月1日(火)	
3日(木)	天皇誕生日
4日(金)	祝禱日
5日(土)	憲法記念日
14日(月)	研修日(全学休業)
23日(水)	こどもの日
6月1日(金)	} 2・3・4年次生健康診断
11日(月)	
7月1日(日)	祝禱日
9日(月)	} 中間試験(授業平常通り)
14日(土)	
15日(日)	孟蘭盆会
16日(月)	} 前期定期試験(前期終了科目) (授業休講)
17日(火)	
18日(水)	夏季休暇第1日

後 期

9月10日(月)	授業再開
12日(水)	前期定期試験欠試届(追試申込) 提出締切
13日(木)	} 外国語指定届受付(仏教・文(除英 米文)・法学部・短大国文・英文の 1年次生及び経済学部の2年次生)
20日(木)	
15日(土)	敬老の日
17日(月)	} 前期定期試験成績発表および再試験 申込受付
18日(火)	
23日(日)	秋分の日
26日(水)	} 前期追・再試験(授業平常通り)
28日(金)	

29日(土)	両祖(道元・瑩山禪師)忌
10月1日(月)	祝禱日
2日(火)	} 1年次生健康診断
5日(金)	
5日(金)	達磨忌
4日(木)	} 歴史・社会学科(1年次生)専攻コ ース指定届受付
5日(金)	
10日(水)	体育の日
11日(木)	} 前期追・再試験成績発表
12日(金)	
15日(月)	第102回開校記念日
11月1日(木)	祝禱日
3日(土)	文化の日
14日(水)	} 転部科試験願書受付
16日(金)	
21日(水)	太祖(瑩山禪師)降誕会
23日(金)	勤労感謝の日
30日(金)	転部科試験
12月1日(土)	祝禱日
5日(水)	} 編入学願書受付
13日(木)	
8日(土)	成道会
10日(月)	卒業論文提出締切(正午)
18日(火)	冬季休暇第1日
19日(水)	編入学試験

昭和60年

1月8日(火)	授業再開
15日(火)	成人の日
16日(水)	} 定期試験(専門・基礎・教職科目)
26日(土)	
26日(土)	高祖(道元禪師)降誕会
28日(月)	} 定期試験(一般・外国語・保健体育 科目)
2月5日(火)	
2月1日(金)	祝禱日
7日(木)	定期試験欠試届提出締切
11日(月)	卒業論文口頭試問
15日(金)	建国記念の日
20日(水)	涅槃会
21日(木)	} 学部4年次生・短大生成績発表およ び追・再試験申込受付
27日(水)	
3月5日(火)	} 学部4年次生・短大生追・再試験, 学部1・2・3年次生追試験
3月1日(金)	
19日(火)	祝禱日
21日(木)	卒業者名簿発表
25日(月)	春分の日
	卒業式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数	(3)
III	授業科目の履修方法	(3)
1.	一般教育科目の履修方法	(3)
2.	外国語科目の履修方法	(5)
3.	保健体育科目の履修方法	(7)
4.	専門教育科目の履修方法	(8)
5.	再履修科目の履修方法	(9)
6.	授業科目一覧表	(10)
	※コード番号について	(15)
IV	履修科目の登録(履修届)	(17)
1.	履修科目の登録	(17)
2.	履修届記入上の注意	(18)
V	試験および成績評価	(19)
1.	定期試験	(19)
2.	中間試験	(19)
3.	追・再試験	(19)
4.	成績評価・単位認定	(20)
5.	進級基準	(20)
6.	受験者心得	(20)
VI	クラス制およびクラス主任	(21)
VII	教職課程・資格講座(国文科・英文科)	(21)
VIII	診療放射線技師国家試験受験資格の取得について	(22)
IX	事務取り扱いについて	(22)
X	届書・願書について	(24)
XI	各種証明書取扱い窓口	(25)
	講義内容	(27)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「短期大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は国文科・英文科が2カ年以上（4カ年をこえてはならない）、放射線科が3カ年以上（5カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 専門教育科目（必修科目・選択科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数

科		所要 区分	一般教育科目			外国語 科目	保健体育 科目		専門教育 科目		計
			人文 分野	社会 分野	自然 分野		講義	実技	必修 科目	選択 科目	
国 文	単位数	6	4	2	4	2	1	28	20	67以上	
	科目数	3	1~2	1	2	1	1	9			
英 文	単位数	6	4	2	6	2	1	32	14	67以上	
	科目数	3	1~2	1	3	1	1	11			
放 射 線	57年度 以降入学生 適用	単位数	4	2	4	4	2	1	82	6	105以上
		科目数	2	1	1~2	2	1	1	39		
放 射 線	56年度 以前入学生 適用	単位数	4	2	12	4	2	1	58	22	105以上
		科目数	2	1	6	2	1	1	29		

Ⅲ 授業科目の履修方法

各科の学生は、それぞれの教育課程から次のように授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、「授業科目一覧表」(P.10~P.14)を参照のこと。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は特定の科目以外は1年次において所定の単位数・科目数を履修しなければならない。
- ロ. 国文科・英文科は人文分野「宗教学Ⅰ(1年次)」・「宗教学Ⅱ(2年次)」を必修、放射線科はいずれも1年次で必修とする。
- ハ. 放射線科の「宗教学Ⅰ」・「宗教学Ⅱ」の授業は金曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。
- ニ. 各科、一般教育科目の所要単位数・授業科目は次表のとおりである。

一般教育科目の卒業所要単位数

科		人文分野	社会分野	自然分野	計
国	文	6 (3)	4(1~2)	2 (1)	12(5~6)
英	文	6 (3)	4(1~2)	2 (1)	12(5~6)
放射線	57年度以降入学生適用	4 (2)	2 (1)	4(1~2)	10(4~5)
	56年度以前入学生適用	4 (2)	2 (1)	12 (6)	18(9)

(注) イ. () 内の数字は科目数

ロ. 放射線科56年度以前入学生の自然分野は選択2単位を含む

一般教育科目の授業科目及び履修学年

科	科目名・単位数	人文分野							社会分野					自然分野												
		宗教学I	宗教学II	哲学	倫理学	文学	歴史学	法学憲法	社会学	文化人類学	法学	心理学	一般数学	数学	一般物理学	物理学	物理学実験	一般化学	化学	化学実験	一般生物学	生物学	地学	心理学	情報科学概論	家庭科学
		2	2	2	2	2	2	4	2	2	2	2	4	4	2	2	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2
国	文	1必	2必	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年												1年	1年	1年	1年	1年
英	文	1必	2必	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年												1年	1年	1年	1年	1年
放射線	57年度以降入学生適用	1必	1必		1年				1年	1年	1年	1年	1年			1年					1年					
	56年度以前入学生適用	1必	1必		1年				1年	1年	1年		1必		1必	1年		1必	1年		1必					

(注) イ. 法学憲法（日本国憲法2単位を含む）と一般数学（数学）は通年で、その他は半期の授業科目である。

ロ. 上記表の1必、2必または1年と年次の指定されてある授業科目が本人の所属する科の開講科目である。

- (a) 1必……1年次生の必修科目
- (b) 2必……2年次生の必修科目
- (c) 1年……1年次生の履修科目（2年次生の履修可）

2. 外国語科目の履修方法

A. 国文科

イ. 英語・ドイツ語・フランス語・中国語およびスペイン語のうち1カ国語（1年次2単位・2年次2単位）4単位を選択必修とする。

ロ. 必修とした科目以外の外国語の履修を希望するものは1カ国語（1年次2単位・2年次2単位）4単位まで選択履修することができるが、この場合の単位は卒業に必要な単位に含めることができない。ただし、必修を英語以外の外国語にしたときは選択を英語とする。

ハ. 1年次の9月に、2年次で履修する外国語の登録を必ずすること。

授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数
英 語 I	2	同一語を1年次I，2年次IIとし合計2科目4単位選択必修
英 語 II	2	
ド イ ツ 語 I	2	
ド イ ツ 語 II	2	
フ ラ ン ス 語 I	2	
フ ラ ン ス 語 II	2	
中 国 語 I	2	
中 国 語 II	2	
ス ペ イ ン 語 I	2	
ス ペ イ ン 語 II	2	

B. 英文科

59年度入学生適用

1年次の履修

4カ国語のうち英語Iと入学手続の際に選択した外国語Iの計2科目4単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 I	2	必修
ド イ ツ 語 I	2	入学手続の際に選択した外国語（1カ国語）を必修
フ ラ ン ス 語 I	2	
ス ペ イ ン 語 I	2	

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれか1カ国語1科目2単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 II	2	うち1カ国語(1科目) 必修
ド イ ツ 語 II	2	
フ ラ ン ス 語 II	2	
ス ペ イ ン 語 II	2	

(注意) 1年次履修の外国語(英語と他の1カ国語)の中から2年次に履修する外国語(第1外国語)を学生自身が選択し、1年次の9月に登録する。したがって、1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。

58年度以前入学生適用

イ. 英語(1年次IG・IR4単位, 2年次II2単位)3科目6単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 IG	2	1年次必修
英 語 IR	2	
英 語 II	2	2年次必修

ロ. ドイツ語, フランス語, 中国語およびスペイン語のうち1カ国語(1年次2単位, 2年次2単位)4単位まで選択履修することができるが, この場合の単位は卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考
ド イ ツ 語 I	2	同一語を1年次I, 2年次IIとし合計2科目4単位選択履修できる。
ド イ ツ 語 II	2	
フ ラ ン ス 語 I	2	
フ ラ ン ス 語 II	2	
中 国 語 I	2	
中 国 語 II	2	
ス ペ イ ン 語 I	2	
ス ペ イ ン 語 II	2	

C. 放射線科

1年次に英語2単位, ドイツ語2単位 計2科目4単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語	2	1年次2科目4単位必修
ド イ ツ 語	2	

※「英語」・「ドイツ語」の授業は金曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。

3. 保健体育科目の履修方法

A. 国文科・英文科（1年次必修）

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は保健理論・体育理論のいずれかを2単位、実技は体育実技を1単位、計3単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保 健 理 論	2	} 体育実技1単位を含めて合計2科目3単位選択必修
	体 育 理 論	2	
実 技	体 育 実 技	1	

B. 放射線科（1年次必修）

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は保健理論を2単位、実技は体育実技を1単位、計3単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保 健 理 論	2	} 2科目3単位必修
実 技	体 育 実 技	1	

※「体育実技」の授業は金曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

実技の種目にはつぎの2種目が開講されている。1年間実技の授業が行われる訳であるが、前期と後期はそれぞれ種目を入れ替えて行う。

（注意） 教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。種目名また種目の担任名ではない。

火・2（英）	火・4（英）	金・1（国）	金・2（国）	金・3（放）
室内球技◎長浜 空手道 大石	空手道◎大石 室内球技 長浜	室内球技◎牧野 剣道 上山	室内球技◎牧野 剣道 上山	テニス◎田中 球技 秋田

※◎印は講座主任

※放射線科は玉川校舎で行う

※国文科・英文科は本校で行う。また、組分については時間割参照のこと。

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して1単位を認定する。前期と後期は種目の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技

試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神及び身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、掲示板に掲示するので平常よく見ておくこと。

4. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は、必修科目と選択科目とに分かれ、次表による単位数・科目数を履修すること。また各年次で履修できる授業科目は「授業科目一覧表」(P.10~P.14)のとおりになっているので、履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。

専門教育科目の卒業所要単位数

科		必修科目	選択科目	計
国	文	28 (9)	20	48
英	文	32 (11)	14	46
放射線	57年度以降 入学生適用	82	6	88
	56年度以前 入学生適用	58	22	80

() 内の数字は科目数

5. 再履修科目の履修方法

- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 必修となっている科目については同じ授業科目を再履修するか、または再試験で単位を補わなければならない。
- ハ. 再履修の科目は新履修科目と同時に届け出をすること。
- ニ. 放射線科の学生で外国語・宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。
また、体育実技の再履修者は、2年次以降の夏季または冬季に実施される校外学習を受講すること。
- ホ. 1年次生は、再履修クラスを履修することはできない。

6. 授業科目一覧表

国 文 科

年次・科目 区分		1 年 次		2 年 次		履 修 方 法	卒業要件	
		授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位		計	合 計 単 位
一般教育科目	人文分野	宗 教 学 I 哲 学 学 文 倫 理 史 歴 史 学	2 2 2 2	宗 教 学 II	2	「宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱ」の2科目を含めて3科目6単位を選択必修	12	卒業に必要単位数
	社会分野	法 学 憲 法 社 会 人 類 学	4 2 2		4 単位を選択必修 ※教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」(日本国憲法2単位を含む)を必修とする。			
	自然分野	生 地 物 学 心 理 学 情 報 科 学 概 論	2 2 2 2		1 科目2単位を選択必修			
外国語科目	必修科目	英 語 ド ン 語 フ 蘭 語 中 国 語 ス ペ ー ン 語	2 2 2 2 2	英 語 ド ン 語 フ 蘭 語 中 国 語 ス ペ ー ン 語	2 2 2 2 2	5カ国語のうち1カ国語を選び1年次Ⅰ、2年次Ⅱの2科目4単位を選択必修	4	卒業に必要単位数
	選択科目	英 語 ド ン 語 フ 蘭 語 中 国 語 ス ペ ー ン 語	2 2 2 2 2	英 語 ド ン 語 フ 蘭 語 中 国 語 ス ペ ー ン 語	2 2 2 2 2	1カ国語1年次Ⅰ、2年次Ⅱの2科目4単位まで選択履修できるが、この場合の4単位は卒業に必要な単位に含めることはできない。ただし必修を英語以外の外国語にしたときは選択を英語とする。		
保健体育科目	実技講義	体 育 実 理 体 保 育 健 理	1 2			体育実技1単位を含み2科目3単位を選択必修	3	
専門教育科目	必修科目	国 文 学 史 国 文 演 習 国 文 法 学	4 2 4	国 文 演 習 国 文 学 史 国 文 法 学	2 4 4	9科目28単位必修 ※国文講読(Ⅰ～Ⅴ)は1年次または2年次で1科目を選択必修とする。	28	67以上
		国 文 講 読 国 文 講 読 国 文 講 読 国 文 講 読 国 文 講 読 国 文 講 読	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2			
選 択 科 目	国 語 表 現 法 論 言 典 概 説 説 説 古 文 学 概 説 説 説 中 代 文 学 概 説 説 説 近 邦 文 学 概 説 説 説 文 学 概 説 説 説 グ ラ ー ン ジ ャ 道 実 習	4 4 4 4 4 4	有 職 故 実 実 書 道 集 実 務 編 集 実 務 邦 文 タイ プ ラ イ テ ィ ン グ II	4 2 2 2	20単位以上を選択必修	20	卒業に必要単位数	
国 文 特 別 演 習 国 文 特 別 演 習 国 文 特 別 演 習	Ⅰ Ⅱ Ⅲ	2 2 2	2 2 2					
国 文 講 読 国 文 講 読 国 文 講 読 国 文 講 読 国 文 講 読 国 文 講 読	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ	4 4 4 4 4	4 4 4 4 4					
年次別履修科目数	17 科 目	15 科 目						

(注) 59年度休講科目
国文特別演習Ⅱ

英 文 科

A. 59年度入学生適用

年次・科目 単位	1 年 次		2 年 次		履 修 方 法	卒業要件	
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位		計	合計 単位
一般 教育 科目	人文分野 宗 哲 教 学 I 文 哲 文 倫 理 史 学 学 学 学 学	2 2 2 2 2 2	宗 教 学 II	2	「宗教学I・宗教学II」の2科目を含めて3科目6単位を選択必修	12	卒業に 必要 な 単 位 数 67 以上
	社会分野 法 社 学 会 憲 文 化 人 類 学 学 学	4 2 2 2		4 2 2 2			
	自然分野 生 地 物 理 学 学 学 学 学 心 情 報 科 学 概 論 学 学 学 学 学 家 庭 科 学 学 学 学 学 学	2 2 2 2 2 2			1科目2単位を選択必修		
外国語科目	英 ド フ ス イ ラ ベ ツ ス ン 語 語 語 語 語 I I I I I	2 2 2 2 2 2	英 ド フ ス イ ラ ベ ツ ス ン 語 語 語 語 語 II II II II II	2 2 2 2 2 2	・1年次：英語と入学手続の際に選択した外国語の2科目4単位必修 ・2年次：1年次で履修の2カ国語のうちいずれか1科目2単位必修	6	
保健 体育 科目	実 技 講 義 体 体 育 実 理 技 論 保 健 健 理 論	1 2 2			体育実技1単位を含み2科目3単位を選択必修	3	
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目 英 英 文 講 読 I 英 英 文 講 読 I オ ン ラ イ ン 文 学 概 論 ム ニ シ ュ 米 語 学 概 論 英 英 文 講 読 I	2 4 4 2 4 4 2	英 英 文 講 読 II 英 英 文 講 読 II オ ン ラ イ ン 文 学 ム ニ シ ュ II	2 4 4 4 2	11科目32単位必修	32	
	選 択 科 目 時 文 事 英 語 英 文 タ イ プ ラ イ テ イ グ ラ ン 文 曲 速 研 記 究 イ ン グ I 演 習 演 習 演 習 英 文 文 学 演 習 演 習 演 習 戯 米 文 学 演 習 演 習 演 習 シ ャ ー ナ 書 演 習 演 習 演 習 秘 英 英 英 英 英 英 英 英 書 語 語 語 語 語 語 語	4 2 2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	商 業 英 語 英 文 タ イ プ ラ イ テ イ グ ラ ン 文 曲 速 研 記 究 イ ン グ II 演 習 演 習 演 習 英 聖 米 文 語 文 語 文 語 英 作 品 作 家 研 究 演 習	4 2 2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	14単位以上を選択必修	14	
年次別 履修科目数	17 科 目		15 科 目				

※ 英語演習I～VIの履修は、いずれか1科目(4単位)に限る。

(注) 59年度休講科目

英語演習V

B. 56年度以前入学生適用

年次・科目	1 年 次					2 年 次					3 年 次					履修方法	卒業要件	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	計		合計単位	
一般教育科目	人文分野	宗 教 学	2	必 修													18	卒業に必要な単位数 105以上
	社会分野	法 社 心 会 理	2	選 択														
	自然分野	数 物 理 学 実 験	4	必 修														
外国語	英 日	2															4	
保健体育	実 技 講 義	1															3	
専門教育科目	必修	医 学 概 論	2		衛 生 学 及 公 衆 衛 生 学	2		放 射 線 設 備 Ⅱ	4								58	105以上
	選択	放 射 線 物 理 学	2		放 射 線 工 学 実 験	2		放 射 線 測 定 法 Ⅱ	1									
年次別履修科目数	23 科 目					17 科 目					14 科 目							

※病院実習科目は履修制限科目数外とする。（病院実習ガイダンス2年：エックス線撮影技術実習・病院実習ガイダンス3年：放射線治療技術実習，放射線設備Ⅱ実習，放射性同位元素臨床検査技術実習）（履修届は必要ない）

※59年度休講科目

放射線設備特論，放射線測定法特論，放射線管理技術特論，臨床放射線学特論Ⅰ，臨床放射線学特論Ⅱ。

※コード番号について

1. 授業科目コード設定の方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コード区分

--	--	--	--	--	--

短大 科 系列 分野 一連番号

ロ. 短大, 科番号は「学生番号について」で説明する。

ハ. 系列, 分野について

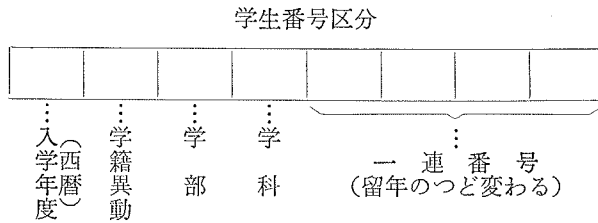
授業科目の区分	系 列	分 野
一般教育科目	0	
人 文 分 野		1(必修), 2(選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
体 育 実 技		1
保健理論, 体育理論		2
専門教育科目	5	
必【修 科 目		1, 2, 3
選 択 科 目		5, 6, 7, 8
課程・講座科目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3, 4, 5, 6, 7

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（留年・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので、正確に覚えておくこと。

学生番号のみかた



学籍異動の番号

- 0…異動なし
- 1…留年
- 2…転部(科)
- 3…編入
- 4…留年をして転部(科)
転部(科)・編入をして留年

短期大学・科の番号表

	短期大学	科
短期大学	8	
国 文 科		1
英 文 科		2
放 射 線 科		3

(例)

4 0 8 1 0 0 1 2 (1984年度入学・短大國文科12番)

⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮

一
九
八
四
年
入
学

⋮
学
籍
異
動
な
し

⋮
短
期
大
学

⋮
國
文
科

⋮
12
番

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し，届出ることにより通年（または半期）授業を受けることができる。

Ⅰ）各年次において履修できる最高授業科目（制限科目数）は次表のとおりとする。

各科履修科目数		年次		
		1年次	2年次	3年次
国文	新履修科目数	17科目	15科目	
	課程・講座登録者科目数	20科目	20科目	
英文	新履修科目数	17科目	15科目	
	課程・講座登録者科目数	20科目	20科目	
放射線	57年度以降入学生適用	新履修科目数	24科目	18科目
	56年度以前入学生適用	新履修科目数	23科目	17科目
				18科目
				14科目

イ．再履修科目は上記表の制限外とする。

ロ．国文・英文科で課程・講座科目を履修する場合。

認める……新履修制限科目数以内＋課程・講座科目数＝20科目

認めず……新履修制限科目数以上＋課程・講座科目数＝20科目

ハ．放射線科で診療放射線技師国家試験受験資格取得希望者は卒業所要単位数（105単位）を取得すれば受験資格を得られる。

ニ．放射線科2年次・3年次の病院実習の科目は制限外とする。

ホ．半期科目も1科目とする。

Ⅱ）登録上の注意

イ．履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること）

ロ．履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ．所属する科以外の授業科目は登録できない。ただし国文・英文科は課程・講座取得に必要な科目は課程・講座科目として履修できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

- ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。
- ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。
- ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

		月 曜 日			
		科目名	科目コード	担任	担任コード
一 時 限		ドイツ語 I	812201	鈴 本	478
二 時 限		保健理論(前期)	814202	植 村	990
		保健理論(後期)			107
三 時 限		宗教学 I(後期)	810101	和田(謙)	978
四 時 限		国語表現法	815508	大 室	151
		古典文学概説	815511	鈴 鹿	476
五 時 限		体育実技	814101	上山(智)	229

正しい記入例

曜日	時 限	再 履	科目名	科目コード	担任	担任 コード	
月 (1)	1		ドイツ語 I	8 1 2 2 0 1	鈴 本	4 7 8	
	2		保健理論(前期)	8 1 4 2 0 2	植 村	9 9 0	
	3		宗教学 I(後期)	8 1 0 1 0 1	和田(謙)	9 7 8	
	4	○		国語表現法	8 1 5 5 0 8	大 室	1 5 1
	5			体育実技	8 1 4 1 0 1	上山(智)	2 2 9

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は，必ず黒または青インクを使用し，捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ，上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は，再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため，下記の場合，登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時限を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例，0と6・1と7)
 - ニ. その他，不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は，時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において，必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し，紛失しないように保管すること。

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。

ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題・枚数・提出日時・提出先等をよく確認の上、提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、教場等については掲示で発表する。

(注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間及び教場割等の掲示に充分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

A 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

B 再試験

定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

(受験料は1科目500円)

(注) イ. 体育実技の追・再試験は行なわない。

ロ. 前期終了科目の追・再試験は9月下旬～10月上旬、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも年度内に実施する。

4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績評価は、優（100点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、可以上を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験の成績評価は70点以下とする。

5. 進級基準

上級学年に進級する場合には、下記の単位数の取得を要する。

A 国文科・英文科

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち25単位以上の取得を要する。

B 放射線科

[57年度以降入学生適用]

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、1年次必修科目42単位のうち33単位以上。ただし、1年次の専門必修科目25単位のうち18単位以上を含むものとする。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、病院実習を除いた1・2年次必修科目74単位のうち62単位以上。ただし、1年次の専門必修科目25単位を含むものとする。

[56年度以前入学生適用]

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち36単位以上。ただし、1年次の専門科目21単位及び一般教育科目の実験科目2単位、計23単位のうち17単位以上を含むものとする。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち63単位以上。ただし、1年次の専門科目21単位、一般教育科目の実験科目2単位、計23単位及び2年次の病院実習7単位を含むものとする。

6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場（教場）で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。
学生証は、監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。
- ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまでは退場できない。
- ニ. 答案の作成はペン書きを原則とする。とくに、科、学年、番号、氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。
- ホ. 下記の場合には退場を命じ、その答案を無効とする。
 - (1) 私語や、態度の不正なもので注意しても改めないとき
 - (2) 許可なく、物品、教科書、ノート類を貸借したとき
 - (3) 監督者の指示に従わないとき
- ヘ. 下記の場合には、その答案を無効とする。

- (1) 無記名のもの
- (2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき
- (3) 指定された場所に提出しないとき

ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し、原則として書き損じても再交付しない。

チ. 受験中に不正行為があって、当該教授会が不正行為と認定したときは学則第45条により懲戒する。なお、懲戒は全学に公示する。

リ. 以上のほか、試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示に従うこと。

Ⅵ クラス制およびクラス主任

イ. 各年次、科毎にクラス制をとっている。

ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅶ 教職課程・資格講座

短大（国文科・英文科）で開講されている資格取得のための課程・講座名は教職課程及び学校図書館司書教諭の1課程1講座である。教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学に於いて教職課程の所要単位を修得したものには、中学校教諭免許状が与えられる。

学校図書館司書教諭講座は、学校教育とならんで重要な公立学校図書館の専門職員となる有資格者を養成するものである。

課程・講座の履修希望者は入学年次の4月に課程・講座科目履修の登録を行ってもらい、オリエンテーションのときに「教職課程・資格講座受講の手びき」を配布し履修等の説明を行う。（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること）

○開講されている・課程

課 程 ・ 講 座 名	
教 職 課 程	1年次より
学校図書館司書教諭講座	1年次より

課程・講座の履修は実習の関係上1年次から行うこと。また、実習ガイダンスは1年次の6月に行う。

Ⅷ 診療放射線技師国家試験

受験資格の取得について

1. 診療放射線技師の免許

免許取得は毎年2回厚生大臣の行う試験に合格しなければならない(官報告示)。

2. 受験資格

短大放射線科において卒業に必要な単位を取得すること。56年度以前入学生については、選択科目は指定規則により必修すること。

Ⅸ 事務取り扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑応答については成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。
ただし、評価の質疑については直接担任教員に申出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分(土曜日は12時)までとする。ただし、昼食休憩時間は12時～13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板(教務部事務室前ロビー)に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在、国電(山手、中央、京浜東北)もしくは東急がストを行っている場合の授業は、全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また学生個人に対する伝達事項も掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

7. 編入学希望の学生へ

国文科・英文科の学生で卒業後、文学部国文学科・英米文学科への編入学を希望するものは、窓口にて相談されたい。

X 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届 書	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願 書	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	⑦

XI 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一 通 100円 (英文証明書) 一通 300円)
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

講義内容目次

一般教育科目(共通).....	(29)
保健体育科目(共通).....	(34)
国　　文　　科.....	(35)
英　　文　　科.....	(42)
放　射　線　科.....	(49)
教職および資格講座.....	(59)

一般教育科目（共通）

人文分野

宗教学Ⅰ（国）（和田 謙寿）	30
宗教学Ⅰ（英）（松田 文雄）	30
宗教学Ⅰ（放）（新井 勝龍）	30
宗教学Ⅱ（国）（鏡島 元隆）	30
宗教学Ⅱ（英）（鈴木 格禪）	30
宗教学Ⅱ（放）（新井 勝龍）	30
哲学（国・英）（国嶋 一則）	30
倫理学（国・英・放）（国嶋 一則）	31
文学（国）（尾形 国治）	31
文学（英）（熊崎 久子）	31
歴史学（国・英）（山口 一之）	31

社会分野

法学憲法（国）（今井 薫）	31
法学憲法（英）（畑尻 剛）	31
法学（放）（大久保治男）	31
社会学（国・英・放）（橘爪 敏）	32
文化人類学（国・英）（佐藤 憲昭）	32
心理学（放）（篠原 英寿）	32

自然分野

地学（国・英）（高木 久）	32
家庭科学（国・英）（田島 隆）	32
心理学（国・英）（篠原 英寿）	32
情報科学概論（国・英）（杉田 徹）	32
生物学（菅原 敬）	33
一般数学（清水 忠良）	33

保健体育科目（共通）

保健理論（国・英・放）（植村 肇）	34
体育実技	34

一般教育科目(共通)

人文分野

宗教学Ⅰ(国)

和田 謙 寿

日本をはじめ、中国・印度における仏教の基本姿勢をわきまえつつ、やがて駒沢大学を卒業して恥ずかしくない仏教的教養を身につけて行くよう努力したい。いわば仏教文化史的な立場のもとに、釈尊の教えと布教発展の歴史を考察して行こうとするものである。特に釈尊の思想を基盤として、寺院の成立、檀信徒制の問題、庶民仏教の特質、禅宗の教線拡張、菩提寺を中心とした集落構成などの面に重点を置いて考えて行くつもりである。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展—民俗学・歴史地理学的考察—』(仏教民俗研究会)
¥ 2,900

宗教学Ⅰ(英)

松 田 文 雄

人間生活と宗教とのかかわりあい、宗教学の学問的領域、その研究方法、宗教の起源論、宗教の分類等について概説し、さらに史上にあらわれた宗教現象、特に世界宗教(Universal Religion)といわれる仏教・キリスト教・イスラーム教等について各説する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗教学Ⅰ(放)

新 井 勝 龍

宗教が人間生活にとって、いかなる意義をもっているかを、世界の諸宗教思想において考察する。そして日本で最も多く信仰されている仏教の特質について、特にその機能の面から理解したい。

〔教科書〕 ノートによる

宗教学Ⅱ(国)

鏡 島 元 隆

初めに禅の歴史をインド・中国・日本について述べ、後に禅の思想を人間論・存在論・社会論等について述べる。

宗教学Ⅱ(英)

鈴 木 格 禅

仏教ないし禅の歴史や伝統を軸としながら、できるだけ広く、且つ具体的な問題をえらび、これを「人間の学」として、共に考え一緒に学んでゆきたい。

〔教科書〕 本学禅学研究室編『宗教学Ⅱ』(更生社)
¥ 1,950

宗教学Ⅱ(放)

新 井 勝 龍

本講座は前期「宗教学Ⅰ」をうけ、まず仏教の中における禅の位置を確かめ、特に禅の展開過程から、禅の個人観、社会観、更に禅の実践を中心として、現在の自己自身における絶対的価値実現の道を探ってゆきたい。

〔教科書〕 ノートによる

〔参考書〕 田村芳朗『日本仏教史入門』

哲学(国・英)

国 嶋 一 則

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表現し、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているかの自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の習得にも努める。

倫理学 (国・英・放)

国嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか、理性的行為といわれるものは、人生の原理(人生観)や世界の原理(世界観)に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の獲得に努める。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

文学 (国)

尾形 国 治

日本近代文学史を概観する時、西洋文学の影響には測り知れないものがある。フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、アメリカ、イギリスはもちろん、北欧文学からも多くを学び、肥料としてきた。本年はそれらの中でもロシアとフランス文学に限定して、その受容の在り方を、わが国の作品にそって検討を加えてみる。従って、わが国の作品(小説)のほか、ロシア、フランス文学の作品を読んでもらうことになる。

〔教科書〕 教場でそのつど指定する。

文学 (英)

熊崎 久 子

東欧の文学を中心に世界文学の流れを、政治・思想・宗教の変遷等を背景に概観する。

〔教科書〕 教場で説明します。

歴史学 (国・英)

山口 一 之

この科目を担当して3年目になります。これまでは、前の年に起った事件等に関連する歴史上の問題をとり上げてきましたので、今回もそうする心算です。何をとり上げて講義するかは未だ決めておりませんが、新学年の開講時にははっきりさせます。

社会分野

法学憲法 (国)

今 井 薫

社会規範としての法の位置づけについて考察しつつ、現在われわれのまわりで行なわれている実定法の概略を講述する。

〔教科書〕 開講時に指示する。

法学憲法 (英)

畑 尻 剛

本講座は、日本国憲法が保障する基本的人権を二つの方向から考察する。一つは、歴史的考察である。憲法の人権規定が「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」(憲法97条)である以上、先人たちの努力の軌跡をたどることは、人権理解に不可欠である。もう一つは、生きた憲法の考察である。基本的人権は「国民の不断の努力によってこれを保持しなければならない」(12条)ものであるので、裁判所の判例などを通して、人権が実際にどのような形で保障されているのかを知ることは、やはり重要である。以上のような基本的人権の考察に必要な範囲で、法学の知識が補充される。

〔教科書〕 尾吹善人『基礎憲法』(東京法経学院出版)
¥ 2,300

〔参考書〕 川添利幸『法学概論』(文久書林)
¥ 1,000

法 学 (放)

大久保 治 男

法の常識は善良な市民として必要となるだろう。法とは何か、法の目的や効力や解釈の問題、法の種類や法と国家の問題を概説し、日常生活に役立つ具体的法律問題、例えば、売買、貸借契約、土地や建物、家族法や相続、犯罪と刑罰から公害や医療事故まで平易に講述していく。技術革新、大家情報社会、消費革命など現代社会の特質などから法の背景も理解しなければならない。さらにアップ・ツー・デイトの関心ある法律問題にまで展開したい。予防医学と共に予防法学も云われる昨今、紛争発生の前に法的知識を有していることが社会生活を平穩に過ごすためにも重要となってきた。豊かな教養、公民教育にも役立つ。興味のわく楽しい法学をモ

